特集・旅行台湾年

〝温泉の宝庫〟台湾

豊富な資源、旅の新たな魅力に

台湾にはたくさんの温泉がある。台湾の温泉文化は、日本統治時代に日本の温泉文化の影響を色濃く受けながら、その後独自の発展を遂げてきた。日本と似ていながら、台湾独特の温泉文化がそこにはある。温泉の楽しみ方も、日本旅館風の温泉ホテルや高級スパリゾートへの宿泊から、日帰りの入浴サービスまで多種多様。温泉にはうるさい日本人旅行者にも新たな発見があるはずだ。

▶温泉リゾート施設の露天風呂（金山温泉）

台湾の温泉文化は、1894年に台北市北部の北投で温泉が開発され、その幕を開けたという。

日本統治時代（1895～1945年）の1896年には、日本人により台湾初の温泉旅館「天狗庵」が北投温泉に開業した。日本統治時代に有名だった温泉は、北投、陽明山、関子嶺、四重溪と言われ、現在でも人気の温泉地になっている。

その後は、台湾各地で温泉地の開発が進んだ。台湾は豊富な地熱資源に恵まれ、ほぼ全域にわたって温泉がある。泉質は硫黄泉や炭酸泉などさまざま。特に、北部の大屯山系は温泉の密集度が高い。また、台湾を南北に貫く中央山脈に両側には台湾の温泉の約8割が集中する。このほか東部の離島にも温泉がある。

台湾でも温泉がブームとなり、日帰りの入浴サービスをはじめ、温泉を備えた大型ホテル、日本旅館風の温泉ホテル、高級スパリゾート施設など、さまざまなスタイルが生まれている。エステやマッサージとの組み合わせはもとより、山や渓谷などの展望、各地の名物料理を合わせて売り込む温泉地もある。

入浴施設自体も、大浴場や露天風呂、貸し切り風呂など多種多様。日本のように裸で大浴場に入る習慣はもともとなかったために、露天風呂や混浴の施設では水着着用の所が多く、温泉プールのような日本とはひと味違う温泉文化も台湾独特な楽しみ方。一方で、日本同様に裸で入浴するスタイルも広まりつつあるようだ。

◀北投温泉の地熱谷

北投温泉

場所：台北市北投区
泉質：炭酸硫黄泉、泉温：55～58度
台北市の北部にあり、ＭＲＴで台北市内から20分、車でも40分ほどの立地。高級ホテルや日本旅館風の温泉ホテルが建ち並ぶ。日帰り入浴サービスを提供している施設も多い。秋田県の玉川温泉の泉質に近いとされる。水蒸気を吹き上げる源泉の地熱谷は景勝地。日本統治時代に建てられた大型温泉施設を北投温泉博物館として復元し、見学できるようになっている。

周水美理事長

台北市温泉発展協会　周水美理事長に聞く

――台湾の温泉の状況は。

「台湾の温泉はこの10年ぐらいで大きく発展しました。温泉地の整備や宿泊施設の開業やリニューアルが進んでいます。台湾人の温泉人気も、かつては中高年が中心でしたが、若い人たちが増え、今では年齢に関係なくにぎわいをみせています」

――台北の温泉は。

「台北の北投温泉は、台湾の温泉の中で最も古い歴史があり、日本統治時代から親しまれてきました。炭酸硫黄泉で、ラジウムが石化した希少な鉱石『北投石』は、この地に由来して命名されたものです。泉質は秋田県の玉川温泉に近いと言われています」

▶日本統治時代の温泉施設を復元した北投温泉博物館

◀鳥来温泉の入浴施設

▶日本人も多く訪れる台湾東部の知本温泉

健康・美容に、長期滞在に

「台湾の温泉文化、伝えて」

――日本人に知ってほしい台湾の温泉の楽しみ方は。

「台湾の温泉は、日本の温泉文化の影響を受け、アレンジを加えながら発展してきたものですので、日本の方にも十分楽しんでもらえると思います。日本の旅行者に特におすすめしたいのは、健康や美容に良い台湾の料理、あるいは台湾のマッサージなどを温泉と合わせて楽しんでもらいたいということです。確かに日本の温泉は素晴らしいと思いますが、料理やマッサージを含めてトータルで楽しめば、台湾独自の温泉文化をより深く感じてもらえるはずです」

――日本の旅行会社に期待することは。

「心身の健康、美容をテーマに台湾の温泉の魅力をＰＲしてほしいと思います。中高年には、のんびりできる長期滞在や癒しのある連泊ステイの商品なども売り出してもらいたいです」

「北投温泉などは、何といっても台北からＭＲＴ（台北地区を結ぶ鉄道網）で気軽に行けるところが便利です。車でも40分ぐらいです。そうした位置にありながら多くの温泉が集中し、宿泊施設や日帰りの入浴サービスが充実した台湾最大の温泉エリアになっています」

日本の旅行会社が販売している台湾のパックツアーにも、4日間のツアーに台北近郊の陽名山温泉などが組み込まれている。5日間以上の周遊ツアーでは、南西部の関子嶺温泉、南東部の知本温泉などに滞在するコースもある。温泉地や施設の整備はもとより、台湾高速鉄道（台湾新幹線）の開通などの交通アクセスの向上で、今後は新たな温泉地にも足を伸ばすツアーが増えるかもしれない。

台湾観光局では、温泉の観光資源としての活用を重視しており、温泉に「美食」というテーマを合わせた「2008台湾温泉美食カーニバル」を来年春まで各温泉地で開催している。

カーニバルでは、温泉地や宿泊施設ごとに地域の独自性あふれる食事メニューを盛り込んだ宿泊プラン、各種料金の割引サービスなど提供している。各温泉地の名物では、北投温泉の地鶏料理、陽名山温泉の野菜料理、金山温泉の鴨肉料理、烏来温泉のタイヤル料理などが人気を呼んでいる。

温泉クーポンを配布中

旅行台湾年 ビッグプレゼントキャンペーン

台湾観光局は、2008～2009年を「旅行台湾年」と位置づけ、重要市場である日本をはじめ外国人旅行者の誘致拡大を目指して大規模キャンペーンを展開している。その一環でビッグプレゼントキャンペーンを実施中。11～12月の期間は、旅行者に「温泉クーポン」＝**写真**＝を配布している。

ビッグプレゼントキャンペーンでは年間を4期に分けて、さまざまなプレゼントや特典を旅行者に提供している。10月からは、台湾各地の温泉地にあるホテルや入浴施設約60カ所で使える日帰り入浴券をプレゼント。

旅行前に個人や団体、旅行会社が申請すれば、抽選なしで受け取ることができる。クーポンの利用期間は来年3月末まで。

問い合わせは、台湾観光協会東京事務所、大阪事務所まで。

加賀屋、北投に〝旅館〟開業

2010年6月にオープン予定

石川県・和倉温泉の高級老舗旅館「加賀屋」は、台北市北部の北投温泉に「加賀屋　北投」（仮称）を開業する。オープンは2010年6月予定。国内外の宿泊客に支持されている加賀屋が、日本旅館の魅力、おもてなしの心をそのままつぎ込んだ純和風の〝日本旅館〟がコンセプトで、台湾内はもとより、日本の旅行会社や旅行客の注目も集めている。

外観のイメージ

客室数は約90室。敷地は約450坪、建物は地上14階・地下3階。日本旅館の良さをそのまま生かした純和風の施設や客室を備え、サービスにも加賀屋のノウハウを使う。大浴場のほか、個室露天風呂が付いた客室も設ける。

宿泊料金は、サービス水準に見合ったブランド感のある価格で1泊2食付きで8千元（約3万円）前後に設定する予定。台湾内、他のアジア地域はもとより、日本からも多くの宿泊を見込んでいる。

総事業費は約17億元（約56億円）に上る。加賀屋と台湾の不動産開発会社が2004年6月に設立した合弁会社が運営にあたる。加賀屋は、台湾内での商標使用を認め、建物の設計監修や旅館サービスの訓練を行う。

「加賀屋　北投」が建つのは、1896年に台湾初の温泉旅館が開設された場所。日本人が開いた旅館「天狗庵」の跡地で、台湾と日本の温泉のゆかりの地に新たな施設がオープンすることになる。

加賀屋にとって「加賀屋　北投」は、海外進出の第1号店だ。加賀屋の三井則由企画課長は「加賀屋には年間約1万5千人の台湾のお客さまに泊まっていただいている。日本に親しみを持っている方が多く、『加賀屋北投』を通じて日本の旅館文化をさらに知ってもらいたい」。加賀屋では、台湾を第1のステップに、今後も海外展開を検討していく考えだ。

台湾観光トピックス

ランタンフェスティバル 2月9日から、宣蘭で

2009年の台湾観光局主催「台湾ランタンフェスティバル」は、宣蘭県の県立宜蘭運動公園で開催される。期間は2月9～15日。大小の灯篭、提灯の色とりどりの灯りが旧正月のクライマックスを盛り上げる。

台湾では旧暦で新年（旧正月）を祝う。特に新年最初の満月の日を「元宵節」（旧暦1月15日）と呼び、提灯を灯す風習がある。これをイベント化したのが台湾ランタンフェスティバル。観光局主催のイベントだけでなく、台湾各地でさまざまな催しがある。

観光局主催のランタンフェスティバルは、1990年から台湾各地持ち回りで開催されている。今年は2月21日～3月2日の11日間、台南県で開催され、約6万個の灯篭、提灯が設置された。期間中の来場者数は住民や観光客合わせて約690万人に上った。

来年2月9日に行われる主な元宵節イベントは次の通り。

ランタンフェスティバル、ランタンカーニバル＝台北市、台中市、高雄市などの各都市、各地の寺廟▽塩水爆竹祭り＝台南県塩水鎮・武廟周辺▽平溪天燈祭り＝台北県平溪郷▽台東元宵節民俗カーニバル＝台東県

台湾観光局、需要喚起へ

新キャンペーン検討

台湾観光局は、台湾のツアーを扱う日本の主要旅行会社に向け、来年1月からの指定ツアーで、3千元（約1万円相当）のクーポンプレゼントキャンペーンの実施を検討している。国際線の燃油サーチャージの高騰などで冷え込む旅行市場を活性化しようと、需要喚起に取り組む。

08年の日本人の訪台旅行者数は、9月末までで80万8千人、前年同期比6・2％の減少だ。9月単月では10・8％減だった。

日本の旅行会社向けの需要喚起策の具体的な内容は現在、検討中。

台湾側では、日本旅行業協会を中心に展開されているビジット・ワールド・キャンペーン（ＶＷＣ）の推進などによる日本人訪台旅行の活性化を期待している。

Tour Taiwan 2008-2009 旅行台灣年

台湾の主な温泉地

□　陽明山温泉
場所：台北市陽明山国家公園
泉質：酸性硫黄泉
泉温：60～70度
台湾で唯一、国家公園内にある温泉で、一帯は春のサクラ、秋のススキなどが美しい。

□　金山温泉
場所：台北県金山郷
泉質：炭酸中性泉
泉温：45～50度
北部海岸に位置する温泉で、景観が美しい。鴨肉料理が有名。

□　烏来温泉
場所：台北県烏来郷
泉質：炭酸水素化ナトリウム泉
泉温：80度
無色無臭の泉質。烏来には先住民、タイヤルの集落があり、タイヤル料理が味わえる。

□　泰安温泉
場所：苗栗県泰安郷
泉質：弱アルカリ炭酸泉
泉温：40～60度
虎山、騰龍、泰安の３つの温泉地に分かれ、豊富な湯量を誇る。泉水は飲用可能。

□　谷関温泉
場所：台中県和平郷
泉質：アルカリ炭酸泉
泉温：48～60度
険しい山が続き、宿泊施設は峡谷に集中。現代的な施設から木造施設まで多様。

□　関子嶺温泉
場所：台南県白河鎮
泉質：アルカリ性炭酸泉
泉温：75度
台湾南部の有名温泉。ぬめりがあり、「美人の湯」として知られる。

□　知本温泉
場所：台東県卑南郷
泉質：炭酸水素化ナトリウム泉
泉温：45～56度
温泉施設を完備した大型ホテルが多い。多くの日本人が訪れる人気温泉の１つ。

□　廬山温泉
場所：南投県仁愛郷
泉質：強アルカリ炭酸泉
泉温：87～90度
関節炎や神経痛に効果があると言われる。桜の開花時期の入浴が人気。

□　礁渓温泉
場所：宜蘭県礁渓郷
泉質：弱アルカリ性炭酸水素化ナトリウム泉
泉温：50～60度
台湾では珍しい平地に湧き出た温泉。礁渓駅を中心に温泉ホテルが林立している。

□　緑島朝日温泉
場所：台東県緑島郷
泉質：硫黄泉
泉温：53～93度
緑島の南島にあり、海岸の岩礁から湧出している。日の出観賞に最適。

※泉質などは台湾観光局の資料による

台湾の温泉情報の詳細は、
http：//www.taiwanhotspring.net

「旅行台湾年」プレゼントキャンペーン実施中

台湾観光局
http://taiwan.net.tw

台湾観光協会東京事務所
電話03-3501-3591　FAX03-3501-3586
〒105-0003　東京都港区西新橋1丁目5-8　川手ビル３階

大阪事務所
電話06-6316-7491　FAX06-6316-7398
〒530-0047　大阪市北区西天満4-14-3-6F